

令和2年度 第1回学校関係者評価委員会（柔道整復学科）議事録

【日時】令和2年9月15日（火） 17:00～18:00

【場所】日本医学柔整鍼灸専門学校 ZOOM 開催

【出席】委員 佐藤 和伸（佐藤代田接骨院 院長）

加瀬 剛 （キネシオ接骨院 院長）

小泉 利幸（三進興産 営業部長）

学校 奥田 久幸（校長）

岸本 光正（副校長）

木下 美聡（フロンティア推進部長）

伊藤 恵里（副学科長）

西村 優一（柔道整復学科教員）

鴨田 佳典（柔道整復学科教員）

森下 友雄（柔道整復学科教員）

事務局 大友 員彦（事務部長代行）

小浜 悠樹 兼子 啓太郎 浅井理英 川上英史 圓乗佑太 伊藤真紀（議事録）

以上 15 名

【欠席】委員 伊藤 述史（公益社団法人東京都柔道整復師会会長）

道狭 浩子（ひろ子整骨治療室 院長）学校関係者評価委員会

【議題】

1. 国試対策について

（委員からの質問）

国家試験の合格率について全国平均もコロナの影響で下がると思われるが、どのような対策を講じているのか。

（学校の回答）

2019 年度も出題基準の変更により全国平均が下がると見込まれていたが、結果は例年どおりであった。今年度もコロナ禍とはいえ、例年と同等の数字になるという見込みを持って我々は取り組んでいきたいと思っている。

## 2. コロナ禍における接骨院の状況 ← ?

(委員からの質問)

チェーン店の倒産、閉鎖等が起こっているが就職状況について教えていただきたい。

(学校の回答)

実態を知るために、就職支援会社の実態調査の情報共有をしている。OB,OGからの情報を収集修している。情報を元に学校でもフィルターをかけて案内をしたり、学生にも情報収集の際に留意して活動するように指導している。

(学校からの質問)

委員の先生方の周辺の接骨院の状況について教えていただきたい。

【世田谷区】100名の会員の情報は集約されている。患者数は30パーセント減となっており、持ち直していないところである。引き続き持ち直しをしていきたいが、以前の状況にはもどってきていない。

【中野区】院によって差があるようだ。患者様に高齢者が多い場合は落ち込みが強いようである。また、交通手段がないといけない立地にある院についても戻りが遅いという話を聞いている。

【練馬区】2割～3割は減っている。スタッフを雇って、店舗を借りているところはかなり厳しいようだ。収束の目途がなかなか見えない状況が続いているが、業界含めて乗り越えていかなければならないと感じている。業界あつての学校でもあるので、業界情勢やお近くでの変化など、今後ともご意見をいただきたいと思っている。

## 3. 中退対策について

(学校からの質問)

本校では中退防止対策を講じているが、臨床現場において早期離職させないための工夫点、気を付けていることがあれば教えてほしい。

(委員の回答)

やり方や基本的なことを丁寧に教えていかないと「ついていけない」という形になってしまうので注意して指導している。実際には「独立開業」するための退職も多く、独立していくことを前提に教えていく。また、入職順に役割や責任が増えていく。「次に何をやるべきか」は先輩の姿を見てわかっているので、モチベーションは保っている。

コミュニケーションがとれず、孤立していくと相談者がいなくなったり、ストレスの発散場所がないとやる気の低下、継続力の低下につながる。教職員のフォロー、様々なツールやしくみの活用、学生同士の連

携が大切であると思う。

(委員からの質問)

新卒者が離職する割合はどのくらいか。開業志向の学生は少ないのか？学校で開業の良さを進めることはあるのか？

(学校の回答)

現状は卒業生から報告を受けないと実態が把握できないので、正確な数字は不明である。報告をいただいたうち、就業から2年以上経過してからの離職者はキャリアチェンジが多い。就職指導時に独立開業のことも含め、話をしているが、実際には他の接骨院で数年経験を積んでから独立を考える学生が多いようである。本校でも来年度から開業支援ゼミを始めるために準備を進めている。

(学校からの質問)

4. 柔道整復師のニーズの変化を感じることはあるか？

(委員からの回答)

ちょうど日整で会議があり、今後の柔道整復師の在り方を考えてきた。これから柔道整復師は防災活動や、救護等に積極的に協力していくべきだと考えている。外傷も治療できるような柔道整復師に今後は近づいていくのではないかと期待を込めて、推進していきたいところである。

以上

令和2年度 第1回学校関係者評価委員会（鍼灸学科）議事録

【日時】令和2年9月24日（木） 15:00～16:00

【場所】日本医学柔整鍼灸専門学校 ZOOM 開催

【出席】委員 前田 真也（カリスタ株 代表取締役）

鈴木 幸次郎 （天心堂鍼灸院 院長）

藤原 良次 （株アールエフ 代表取締役）

学校 奥田 久幸（校長）

岸本 光正（副校長）

青木 春美（学科長）

中村 幹佑（教務委員長）

天野 陽介（学生委員長）

事務局 大友 員彦（事務部長代行）

小浜 悠樹 兼子 啓太郎 浅井理英 川上英史 圓乗佑太 伊藤真紀（議事録）

以上 15 名

【欠席】委員 高島 風香（カリスタ株 執行役員）

【議題】

1. 退学・除籍率について

（委員の質問）

説明の中にあつた「予期せぬ退学者」というのはどのような理由なのか？

（学校の回答）

退学の兆候がまったく見えず、真意を伝えず退学に至ってしまった学生を意味する。今年度、講義科目はほぼオンライン授業となっており、例年より学生とのコミュニケーションがとりやすく、信頼関係を築きにくい状況である。担任は退学の兆候を早期に発見すべく、成績はもちろん出席状況、提出物の提出状況、オンライン授業の画面表示などを注意して見ており、こまめな声かけや面談を実施している。

2. 国試合格率について

（委員の質問）

3年生国家試験対策において合格率向上のために必要なことの1つとして、「合格する実力のある学生を確

実に合格へ導く」ことが挙げられているが具体的にはどのようなことか。

(学校の回答)

昨年度、有資格者（履修免除申請者）や合格圏内の学生が不合格となってしまうことがあった。フォローアップを強化していきたい。

以上

令和2年度 第2回学校関係者評価委員会（柔道整復学科）議事録

【日時】 令和3年2月16日（火） 17:00～18:00

【場所】 日本医学柔整鍼灸専門学校 ZOOM開催

【出席】 委員 佐藤 和伸（佐藤代田接骨院 院長）  
加瀬 剛 （キネシオ接骨院 院長）  
道狭 浩子（ひろ子整骨治療室 院長）

学校 奥田 久幸（校長）  
岸本 光正（副校長）  
木下 美聡（フロンティア推進部長）  
伊藤 恵里（副学科長）  
西村 優一（柔道整復学科教員）  
鴨田 佳典（柔道整復学科教員）  
森下 友雄（柔道整復学科教員）

事務局 大友 員彦（事務部長代行）  
小浜 悠樹 兼子 啓太郎 川上英史 圓乗佑太 伊藤真紀（議事録）以上16名

【欠席】 委員 伊藤 述史（公益社団法人東京都柔道整復師会会長）  
小泉 利幸（三進興産 営業部長）

【議題】 学校経營業績重要指標についての報告

1. 退学・除籍率
2. 定員充足率
3. 就職率
4. 国試合格率

## 1. 退学・除籍率について

（委員からの質問）

退学の主な理由はなにか？

（学校からの回答）

昼間部、夜間部ともに異業種への進路変更である。

（委員からの質問）

オンライン授業のメリット・デメリットを教えてください。

（学校からの回答）

メリットとしては学生、教員ともに通学（勤）しないので、感染リスクを抑えて授業をおこなうことができる点である。

しかし、デメリットとしてはZOOMの画面をOFFにして参加している学生も多く、学生の反応も見えず、集中して受講しているのかわからないため、理解度、学力の低下といった懸念点がある。

(委員からの質問)

試験はどのように行ったのか。大学や他の専門学校でもあまり試験対策をせずとも合格ができるという話を聞くが、その影響は国家試験にも影響はあるか？

(学校からの回答)

1、2年生はGooglefoamを使用してオンラインで試験をおこなった。学生のことは信じているが、直接的な監視はしていない。国家試験への影響はかなり大きいと思っているので、今後フォローをしていきたいと思う。3年生は国家試験、卒業も控えていたため、対面でおこなった。

(委員からの質問)

授業中画面OFFはなぜ起こるのか？

(学校からの回答)

ルールの周知徹底に努めていたが、再度来年度は強化していきたい。

## 2. 就職率について

(委員からの質問)

就職先で一番多いのは接骨院か？

(学校からの回答)

接骨院が一番多い。次いで整形外科、介護施設といった順番である。

## 3. 定員充足率について

(委員からの質問)

入学を決めた一番の理由はなにか？オンライン授業を決めてとした入学者はいたか？志願者の減少はオンラインであることが影響しているか？

(学校からの回答)

決め手としては金額的なところが大きいと思う。また、前年度オンライン授業していないので、正確な数字は不明だが一定数はいると思う。コロナ禍で高等学校の進路指導も例年と比べ変更しており、高校生は志望校をある程度決定したうえで学校見学、受験をしているようである。よって、そもそも本校が選択のテーブルに乗っていない状態であったと考えられる。その原因の大きな部分は国試合格率低さであると思うので、現在、学校を挙げて対策をしているところであり、ここ近年新しい取り組みを初めているので引き続き注力していきたい。

## 4. 国試合格率について

(委員からの質問)

出題傾向が変更されたのは昨年だったと思うが、変更したことが結果に影響したのか？

(学校からの回答)

出題基準の変更による新卒者の合格率の低下には特に影響はなかったと考えている。

(委員からの質問)

不合格者は実力がなかったから不合格なのか、それとも別の理由があるのか。

(学校からの回答)

昨年度の不合格者16名中7名があと5点あれば合格していたことがわかっている。学習に早くから取り組むことが重要だと考えている。また今年度は個別対応に重点を置き、自学の習慣を早くから身に着けることにより、9月には自分たちで学びあう姿を見ることができた。それにより学習効果が高まり、例年教員が補講を実施するよりもよい効果を生み出していると感じている。

以上



令和2年度 第2回学校関係者評価委員会（鍼灸学科）議事録

【日時】 令和3年2月25日（木） 15:00～16:00

【場所】 日本医学柔整鍼灸専門学校 ZOOM開催

【出席】 委員 前田 真也 （カリスタ株式会社 代表取締役）  
鈴木 幸次郎（天心堂鍼灸院 院長）  
藤原 良次 （株式会社アールエフ 代表取締役）  
松田 博公 （日本伝統鍼灸学会顧問）  
寺裏 誠司 （株式会社 学び 代表取締役）

学校 奥田 久幸（校長）  
岸本 光正（副校長）  
青木 春美（学科長）  
天野 陽介（鍼灸学科教員）  
中村 幹佑（鍼灸学科教員）  
渡邊 靖弘（鍼灸学科教員）

事務局 大友 員彦（事務部長代行）

小浜 悠樹 兼子 啓太郎 川上 英史 圓乗 佑太 伊藤 真紀（議事録）以上17名

【議題】 学校経営業績重要指標についての報告

1. 退学・除籍率 2. 定員充足率 3. 就職率 4. 国試合格率

1.退学除籍率について

（委員からの質問）

オンライン授業が行われている中で、画面ONにして授業するように指導するなど、努力していることがうかがわれる。今年度はオンライン授業によりどの学校においても休退学の発生率が低かったが、今後対面授業が再開されるにあたり、人間関係などのトラブルにより休退学率が上がるのではないかという不安もあるかと思われるが、具体的な対策などはあるのか？

（学校の回答）

実際に現在でも、感染症の影響で仕事が減少してことにより学費面に不安を抱える学生や、今後勉強を継続していけるのかといった不安を抱えている学生もおり、休退学の相談を受けているケースもある。ご指摘のとおり、問題が顕在化していないだけと思うので、今後担当者とも合わせて対応策について協議していきたい。

2.定員充足率について

（委員からの質問）

給付金を利用する学生のモチベーションについてはいかがか。

(学校の回答)

他の学生と同等である。

### 3. 就職率について

(委員からの質問)

数ある鍼灸学校でこんなにも就職に力を入れてフォローしている学校は珍しく、大変素晴らしいと思った。就職の内訳を知りたい。また、さらに大学などに進学して研修などをする学生がいたら、その割合を教えてほしい。

(学校の回答)

研修希望者は例年数名おり、今年度は3名の希望者がいた。また、教員養成への進学は2名いた。新卒者～20代に前半については鍼灸院や鍼灸接骨院に勤務鍼灸師として就職する学生が多い。また本校の学生層が幅広いので、現業を続けながら鍼灸に携わりたいものもいる。

### 4. その他

(委員からのご意見)

例年参加しているので、努力していることはよく伝わっているが、学校経営業績重要指標以外に新しい指標などの発表などがあるとよいと思う。またこれらの成果について経年的な動向が見えるような発表スタイルがよいのではないか。

(学校からの回答)

貴重なご意見ありがとうございます。学生募集については例年よりも低くなった理由として、何か理由が本校にあったのではなく、競合他校も学校の魅力作りに力を入れてきていることが一因であると考えます。

本校はマッサージを除く鍼灸・柔整の学校では一番の学生数があると思う。おかげ様で昼夜間部ともに定員充足を果たし、ある程度のところまで到達できた感覚はあるが、今後はさらに新しいの領域を目指して向上していかないといけないと思っている。

また鍼灸師を目指している方も減少傾向にあるという情報もあるので、1歩も2歩もリードしたものを作っていかなければならないと思っている。それは学生募集だけではなく、学修の中味であったりDX化、ICTを活用し、学びが更に向上する仕組みを考えたりと、次のフェーズに本格的に入っていきたいと考えている。また授業評価アンケートも実施しているので、次回報告したいと思う。

(委員からの意見)

他校の重要指標のひとつに「この学校を後輩に積極的に進めたいか？」という項目がある。それは究極の満足度であり、その理由が「学修内容」「教員との人間関係」「学生間の人間関係」といったようなどの要因に関連しているのかも分析もされている。ぜひ参考にしてみてください。

(意見からの質問)

日本医専の魅力、良いところ、また足りないことはどのようなことがあるか。

(学校の回答)

日本医専は7年前から「改革」ということで質の高い教員を集めてきた。また、教員一人一人が学生にわかりやすく伝えられるように日々努力していることは良いことのひとつであると思う。また、教職員一人一人が日々少しでも改善、進化したいと思う集団であるからこそ、現在あるものと考えている。

課題としては教育の中身と思っている。まさに「教えるのではなく、自ら学ぶ」環境と、きっかけをどう作っていくのかが重要である。それと同時に、我々から「新しい学び」にあり方を発信していきたいと思っている。

以上